

Ⅱ. 3つのポリシー

【 1 】 アドミッションポリシー（入学生受入方針）

本学では、建学の精神である「師弟の和熟による人間形成」を実現するために、人間教育を基礎とした個人の持つ可能性の探求と地域社会・文化・産業の発展に向けた有為の人材の育成を目指しています。そのために次のような人材を求めています。

経営福祉学科では、急激な高齢化や高度情報通信化などの社会の変化に対応できる、広い視野と的確な判断力を備えた積極的で意欲ある人材を求めています。

とくに、現代社会の急激な変化に対応していくために、各自の個性に応じた専門知識と技術の習得を目指します。

幼児保育学科では、将来、保育所・幼稚園・社会福祉施設などで活躍したいと考え、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状の取得を目指す人を求めます。そのなかで専門職としての自覚を持ち専門的な知識や技術のみならず基礎教養を習得し、かつ常識的な生活感を身につけた保育者を目指します。

【 2 】 カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

（ 1 ） 幼児保育学科

本学科では前述のディプロマポリシーに基づき以下のようにカリキュラム編成を行っている。

本学科のカリキュラムは保育士免許および幼稚園教諭二種免許取得の指定科目が大半を占めており、厚生労働省・文部科学省が卒業までに達成すべき学習成果と保育士、幼稚園教諭など保育者として身につけるべき力を明示している。また、『師弟の和熟による人間形成』という建学の精神に基づき、保育者としての人間性の醸成、地域のニーズに対応できる人材育成を目指すことを示している。

これらの指針に従い、本学科の教育課程では、基礎教養科目、専門教育科目、及び各種資格取得に関する科目から構成している。基礎教養科目では、多様な教養を身につけることで人格形成を目指し保育者としての人間形成を行う。専門科目では、保育者としての高度な専門性を身につけるため、保育・幼児教育などの知識と技術が体系的に学ぶことができる科目構成となっている。

（ 2 ） 経営福祉学科

・ 介護福祉士コース

介護福祉士コースのカリキュラムはその大半を介護福祉士資格取得のための指定科目が占めており、厚生労働省が卒業までに到達すべき学習成果と介護福祉士として身につけるべき力を明示している。

これらの指針に従い、本コースでは介護福祉士養成における「介護」、「人間と社会」及び「こころとからだのしくみ」の3領域に編成し、領域ごとの連携を重視しながら、カリキュラムの編成に努めている。

・国際・ビジネスコース

本コースでは、ディプロマポリシーに基づき以下のようにカリキュラムを編成している。

- ① 簿記やコンピュータを専門に習い、企業人としての専門知識を持った人材を育成する。
- ② 少人数教育を中心とした学生と教員の親睦を深めた人間教育を行う。
- ③ 企業人としての基礎的素養および学力を身につける。
- ④ 実学を重視して演習科目に力を入れる。
- ⑤ 正規の授業科目を補充するための特別講座を開講する。

【 3】ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学は、建学以来の『師弟の和熟による人間形成』という建学の精神に基づき前述のように三つの教育理念を定めている。（Ⅰ）

その建学の精神・教育理念を反映して、各学科において教育目標が定められている。（Ⅲ）

ディプロマポリシーは卒業認定、学位授与の方針を意味するが、基本的には本学の教育理念に基づく教育目標を2ヶ年間の教育期間において達成できたものおよびカリキュラムに明示されたに所定の単位取得者に学位を授与することになる。

各学科・コースのディプロマポリシーは、以下の通りである。

（ 1）幼児保育学科

幼児保育学科の教育目標は、つぎの三つである。

- ① 理論と実践の融合を図り、保育者としての専門性を自覚すること。
- ② 社会的な常識や、幅広い教養を身につけること。
- ③ 時代にあった生活感を身につけること。

幼児保育学科の所定の卒業単位数は62単位と定められている。ただし、保育士免許および幼稚園教諭二種免許取得のためには、厚生労働省・文部科学省の要求する単位数の取得が求められる。

（ 2）経営福祉学科

経営福祉学科の教育目標は、つぎの四つである。

- ① 多様化した社会での「生活力」の涵養。
- ② 基礎学力の重視と補習授業の徹底。

③ 実学に重点を置いた実践教育。

④ 地域社会との交流の促進。

経営福祉学科では介護福祉士コースと国際・ビジネスコースを設けている。それぞれコースの特性に応じて、以下のような人材の育成を目指している。

介護福祉士コースの場合は、「あらゆる介護場面に汎用できる基本的知識・技術を養い、自立支援の観点から尊厳ある介護実践ができ、かつ思いやり愛情ある介護福祉士の養成すること」を目的とする。

国際・ビジネスコースの場合は、現在の複雑で多様なグローバル社会を生き抜く力を持った人材の育成を目的とする。

Ⅲ. 学科の教育目的・目標

幼児保育学科

幼児保育学科においては、保育に携わる教養や専門的な知識を習得させ、保育士・幼稚園教諭として最も基本となる人間性を育み、社会的貢献を通じて地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的としている。

さらに、幼児保育学科の特性を活かした保育者養成の目的を達成するため、以下の3つの教育目標を掲げている。

- 1) 理論と実践の融合を図り、保育者としての専門性を自覚すること。
- 2) 社会的な常識や、幅広い教養を身につけること。
- 3) 時代にあった生活感を身につけること。

加えて、教員（幼稚園教諭）養成については、以下の3つの教育目標を掲げている。

- 1) 理論と実践を融合させ、専門性を身につけた保育者の養成。
- 2) 社会的な常識や、幅広い教養を身につけた保育者の養成。
- 3) 現場での実践力とコミュニケーションスキルに優れた保育者の養成。

経営福祉学科

経営福祉学科においては、経営や情報および社会福祉に関する専門的知識・技能を習得させ、職業人として最も基本となる人間性を育み、地域に根ざした企業人および介護福祉士としての社会的貢献を通じて地域の活性化に資する人材の養成を目的とする。

さらに、経営福祉学科における2つのコース（国際・ビジネス、介護福祉士）の特性を活かした、地域の活性化に資する人材育成の目的を達成するため、以下の4つの教育目標を掲げている。

- 1) 多様化した社会での「生活力」の涵養。
- 2) 基礎学力の重視と補習授業の徹底。
- 3) 実学に重点を置いた実践教育。
- 4) 地域社会との交流の促進。

IV. 学科の概要

本学には、経営福祉学科と幼児保育学科の二学科が置かれています。

【 1】 経営福祉学科では、急激な高齢化や高度情報通信化などの社会の変化に対応できる、広い視野と的確な判断力をそなえた積極的で意欲ある人材の育成を目的としています。

とくに、現代社会の急激な変化に対応していくために、各自の個性に応じた専門知識と技術の習得を意図し、次の二つのコースが開設されています。

1. 【介護福祉士コース】

わが国は、現在高齢化社会・長寿社会を迎えており、人の健康・福祉に関する問題が大きな社会的課題になっています。このような社会状況に適切に対応するために、介護福祉士コースでは、人と人との関わり合いやコミュニケーション能力、生活知識の習得をベースに、介護関連の知識や技術の他、経営に必要な請求業務や福祉用具に関することなどを幅広く学び、最も基本となる人間性の育成に努め、温かい心を持った介護福祉士を養成します。

また、現場でのインターンシップやボランティアなどを積極的に体験してもらいます。

2. 【国際・ビジネスコース】

会計は会社・事業所において必用不可欠な業務であり、コンピュータの知識は現代の高度情報化、通信化社会においてますます重要視されています。また、急速にグローバル化が進む現代においては、外国人とのコミュニケーションや異文化交流は重要度を増してきています。

国際・ビジネスコースでは、企業や事業所の体力を把握し、社会的な背景を分析した上で将来的な財務戦略を組み立て、様々な人たちとコミュニケーションをとることができるようなグローバルに活躍できる人材を育てます。

また、このコースで所定の単位を取得した学生は、税理士受験資格が取得できます。

【 2】 幼児保育学科では、将来、保育所・幼稚園・認定こども園・社会福祉施設などで活躍したいと考えている皆さんへ保育士資格や幼稚園教諭二種免許状を取得するための保育者養成を主たる目的としています。専門職としての自覚を持ち専門的な知識や技術のみならず基礎教養を習得し、なおかつ常識的な生活感を身につけている保育者の養成を目指しています。

さらに、准学校心理士や、ピアヘルパー資格など、保育に関連した知識についても学ぶことが可能です。

以上が両学科の概要ですが、そこに共通する特徴として「少人数教育」をあげることができます。大規模な大学でよく見かけられるマス・プロ授業は、本学には皆無です。ゼミ形式の授業は、学生と教員との人格的触れ合いを大切にして進められます。単なる知識の伝達だけが教育ではありませんので、諸君もこうした授業を通じて「人格の完成」をめざしてください。

V. 大学での教育について

(1) 大学とは

「大学」とはいうまでもなく教育と研究を行う機関ですが、それは academic freedom という原理によって支えられています。このことは「学問の自由」とも呼ばれます。自由のないところには大学は存在しえないといってもいいでしょう。

ところで「自由」とは何でしょうか。一般的には「何をしてもよい」とか「自分勝手」などというのが自由であると考えられているかもしれませんが、けれども、アカデミック・フリーダムという自由とは「自立」ないしは「自律」という意味なのです。

自立とは、自分の足で立って歩くことです。歩いて行く方向や道順は自分で選ぶのです。書物で調べたり先生や先輩に教えてもらったりすることももちろん必要ですが、歩くのは自分なのです。速度は遅くとも自分の足で歩くことに意味があるのです。他の人に歩いてもらったのでは自分は一歩も前進しません。

その行動基準は各人が自分で持っていなければなりません。もちろん他の人の意見や助言を求めることは大切ですが、それに振り回されたり言われるがままになったりしては自らを律していることにはならないでしょう。

高等学校とちがって大学はいろいろな面で「自由」です。しかし、上に述べたことから明らかなように、この自由には責任が伴います。その責任の最大のものは「真理の追求」に対する責任です。何が正しいかを自由にかつ厳しく追い求めるところ—それが大学なのです。

大学では学生を子供扱いして教育するということはありません。大学は自由な世界・自立した世界であるので、このことを守る責任は、その構成員である大学人一人一人が負わなければなりません。

以上で大学が基本的にどういう原理で動いているかわかったことと思います。そこでつぎに中九州短期大学での教育について少し具体的に説明しましょう。

(2) 授業について

大学では朝夕のホーム・ルームといった時間がありません。時間が来ればすぐ授業が始まり、その日自分の受ける授業が終われば帰ってもいいのです。もちろん図書館で勉強するのもクラブ活動を行うのも自由です。また、高校のようなクラスとか学級担任といったものもありません。

高校の授業と違う第二の点は、先生や科目によっては教科書を使用しない場合もあることです。ですから自分でこまめにノートをとらなければなりません。授業中の先生の説明で重要だと思ったことはどんど

んメモしていくことが必要です。先生の話の聞いているだけとか黒板に書かれた文字をノートに写すだけというのでは、いずれ授業がわからなくなってしまう。最後にもうひとつ高校の授業との違いをあげるとすれば、それは自学自習の重要性ということです。大学は単に教育機関であるだけでなく研究機関でもあるのです。おおいに図書館などを利用して授業中に紹介された書物とか関係がありそうだと思う本を積極的に読んでいってください。そのようにして初めて大学の授業が成立するといっても過言ではありません。

つぎに本学での教育のシステムを概説します。本学は二学期制を採用しています。つまり一年が前期と後期とに分けられているのです。そして、定期試験はこの前期・後期のそれぞれの終わり頃に実施されます。(ただし授業科目によっては前期または後期の半年間だけで終了する場合がありますから、こういう科目については定期試験は年一回ということになります。)

高校までは一時限の長さが 50 分前後ですが、大学ではこれがほぼ二倍になります。本学では 90 分単位の授業が一日に 5 時限組まれています。ただし、必ずしもこれらの授業の全部を受ける必要はありません。卒業するのに必要な、あるいは免許・資格を取得するのに必要な科目を選んで履修するのです。

履修する授業科目は、大きく次のように分類されます。

(a) 教養科目

(b) 専門教育科目

卒業するためには、この (a) と (b) の中から二年間にわたって、

1. 卒業に必要とされている科目 (卒業必修科目) を選び
2. それらを各年度の始めに登録し
3. 授業を受け
4. 定期試験に合格する

ということが必要です。免許や資格を取得する場合もこれに準じます。

(3) 指導教員について

指導教員とは、学生の皆さんが学生生活をサポートする教員です。履修・成績についての指導や助言、提出書類についての認証、進路についての指導や助言、その他必要と認められる場合の事項について指導を行います。

(4) オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員の研究室を訪ねて、学習に関することや学生生活について相談が出来る時間です。このオフィスアワーの時間には、各教員は研究室に控えていますので、相談したいことがあるときには研究室を訪ねてください。

各教員のオフィスアワーについては、別途お知らせします。